授業科目名： 心理学（Ｉ）	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：平　雅夫 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）			
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

「学位授与の方針」との関係

ディプロマポリシーの B に関連し、”心“の問題を科学的に扱う専門知を身につけることが本科目では目標である。

授業の到達目標及びテーマ

（Ｉ）心理学の科学的側面を理解できる

（２）心理学の歴史的発展を理解できる

（３）心理学の研究対象を理解できる

（４）心理学の研究方法を理解できる

授業の概要

心理学は、文字通り、「こころ」について科学する学問である。つまり、端的にいうならば、心理学は、「『こころ』の理解」を最終目標とする学問であるといえる。

おそらく、この科目に関心のある人は、心理学を通じて自他の日常的な悩みの解決や心理的な支援を要する人に役立つことを目指している人が多いことが想定される。たしかに、そうした悩みの解決や心理的な対人支援に関して、心理学は長い時間をかけながら、強く関与してきたし、多大な貢献もしてきたといえる。また、書店に行けば、店頭の雑誌の表紙に、心理学に関わるタイトルが目に飛び込んでくることも多いように、現代においては、心理学は身近なものといえるくらいに浸透している。しかし、通俗的な雑誌で取り上げられる表面的で興味本位な理解では、多くの過ちも生じるであろうし、「こころ」の問題の解決どころか、有害な情報となることさえあろう。心理学は、長い時間をかけて科学的に進展した経緯もあり、通俗雑誌の数ページで理解できるほど、浅薄なものではないのである。

この科目では、自他の悩みの解決や心理的な支援を要する人への貢献などの問題意識を持つ人も、遠回りのように思えるかもしれないが、心理学の基礎的な知識と思考法の習得を目指している。けっして容易とはいえない学修になると思われるが、意欲的に取り組んでほしい。

なお、さらに学修を深めたい人は、より応用的な心理学を中心に取り上げる「心理学（２）」や、より実践的な「臨床」の心理学と中心に取り上げる「臨床心理学」も併せて受講されたい

授業計画

第１回　心理学の視点　　テキスト：第１章

第２回　行動の基本様式　テキスト：第２章

第３回　発達　　テキスト：第３章

第４回　心理学の歴史　　テキスト：第10章 10.1～10.6

第５回　学習・記憶　　テキスト：第４章　4.1　4.2

第６回　学習・記憶　　テキスト：第４章　4.3　4.4

第７回　感覚・知覚　　テキスト：第５章　5.1

第８回　感覚・知覚　　テキスト：第５章　5.2

第９回　感覚・知覚　　テキスト：第５章　5.3

第１０回 感覚・知覚　　テキスト：第５章　5.4

第１１回 思考・言語　　テキスト：第６章

第１２回 動機づけ・情動　テキスト：第７章

第１３回 個人差　　テキスト：第８章

第１４回 社会行動　　テキスト：第９章

第１５回 心理学の現況　　テキスト：第10章　10.7

定期試験

教科書

（１）鹿取廣人／杉本敏夫／鳥居修晃／河内十郎（編）

「心理学　第5版　補訂版」

参考文献

教科書の各章末にある参考文献を参照されたい。

学生に対する評価

レポート評価（５０％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。